

# 茂住薈郵書展

「令和」を揮毫した書道家

## 吉靈の書

令和4年 7月2日(土) — 8月21日(日)

飛驒市美術館

〒509-4221岐阜県飛驒市古川町若宮2-1-58 TEL. 0577-73-3288

9時—17時 〔入館は閉館30分前まで  
(※7月2日のみ10時30分開館)〕

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

入館料：200円 高校生以下無料

（障がい者手帳の交付を受けている方と20名以上の団体は20%割引）

無料開放日 家族ミュージアムの日（第3日曜日）

主催：飛驒市・飛驒市教育委員会・茂住薈郵書展実行委員会

後援：読売書法会・謙慎書道会・全日本書道連盟

協力：古川町商工会青年部

〔パリ展〕令和4年2月22日(火)～3月5日(土) パリ日本文化会館

〔銀座展〕令和4年5月17日(火)～5月22日(日) 東京銀座画廊・美術館

〔高山市展〕令和4年6月11日(土)～6月19日(日) 高山市民文化会館



私たち「日本の書道文化」の  
ユネスコ無形文化遺産登録を  
応援しています。

# 茂住菁郵書展 —言靈の響—



茂住菁郵(本名: 茂住修身)氏は飛騨市古川町出身の書家です。大東文化大学在学中より青山杉雨に師事し、現在まで日展等の公募展に出品するなど、「書道」を追求し続けています。書家として活躍する一方、大学卒業後はその能力を活かして内閣府の辞令専門職の任に付き、総理大臣や国務大臣の認証官等の辞令書揮毫に携わりました。新元号「令和」発表の記者会見では、官房長官の掲げた墨書を茂住氏が揮毫したことは記憶に新しく氏の書がより一層全国に知れ渡る転換点となりました。本展は41年に渡る辞令専門職としての任務を紹介するとともに、茂住氏の書家としての足跡を振り返ります。



## イベント情報

書家 茂住菁郵氏の集大成となる図録が完成しました。  
講演会やギャラリートーク時にお求めいただいた方には、ご希望で直筆サインいたします。

日 時	事業名	会 場	
7月 2日(土)	10:00 ~ 10:30 開会式	飛騨市美術館 正面玄関	参加費無料
	10:30 ~ 12:00 オープニングギャラリートーク 書道作品の楽しみ方ほか	飛騨市美術館 展示室	参加費無料※
7月 17日(日)	13:00 ~ 14:30 講演会 「令和」揮毫の裏側、書の楽しみ方	飛騨市文化交流センター 小ホール	定員 100席 参加費無料
7月 24日(日)	9:00 ~ 12:00 山中和紙を使用した自分だけの書うちわ作り うちわは、親1つ、子1つずつ作っていただけます	飛騨市美術館 研修室	参加費 500円／組 小中学生親子 5組 要申込(応募多数の場合は抽選)※
	14:00 ~ 14:20 ギャラリートーク 漢字の成立ち	飛騨市美術館 展示室	参加費無料※
8月 7日(日)	<b>関連イベント(古川町商工会青年部)</b> <b>七夕まつり &amp; ナイトミュージアム</b> 茂住菁郵 書道パフォーマンス 短冊に願いを書くワークショップ	飛騨市美術館&屋外広場	[お問い合わせ先] TEL.080-5492-8465 詳細は別途チラシにて
8月 11日(木・祝)	11:00 ~ 11:20 ギャラリートーク 書道作品制作について	飛騨市美術館 展示室	参加費無料※
	13:00 ~ 16:30 書×広葉樹の作品作り 書と飛騨市内産広葉樹をコラボさせた、自分だけのグッズ作り	飛騨市美術館 研修室 FabCafe Hida 飛騨市古川町式之町6番17号	参加費 1,000円 中学生以上10名 要申込(応募多数の場合は抽選)※

**茂住菁郵** (もづみ・せいそん) プロフィール

日展会友、読売書法会理事・審査員、謙慎書道会常任理事、大正大学客員教授  
本名は修身(おさみ)。昭和31年(1956)、飛騨市古川町に生まれる。

県立斐太高等学校卒業後、大東文化大学へ進学。大学時代に青山杉雨(文化勲章受章)に師事、書の魅力を知る。昭和55年(1980)より総理府(現在の内閣府)に入府。  
平成17年(2005)より内閣府大臣官房人事課辞令専門官となり、長らく国民栄誉賞の賞状や総理大臣表彰、国務大臣の辞令の揮毫を担当する。

令和元年(2019)4月1日の新元号の発表に際しては、「令和」の揮毫にあたった。

雅号は菁郵。令和3年4月から書家としての創作活動を本格化し、「茂住菁郵書展—言靈の響—」をフランスパリ、東京銀座、高山市、飛騨市にて開催。



mozumi-seison.com

